

若手海技者が船上での経験談を説明 ～ 神戸大学（海事科学部）2年生への講演会を開催 ～

当協会は、2008年7月に人材確保タスクフォースを設置し、船員教育機関(大学、高専、海事教育機構)とも連携しつつ、優秀な日本人船員(海技者)確保のための様々な広報活動等を行っている。

この活動の一環として、2011年4月27日午後、神戸大学海事科学部(深江キャンパス)において、海事科学部2年生向けに「基幹産業としての海運と船舶職員の日」と題し講演会を実施した。

講演会では、商船三井 星野重之一等機関士の司会進行の下、まず、日本郵船の津田達矢一等機関士から海運産業の概要や日本の経済活動及び国民生活における海運の重要性、船内での業務概要について説明あった後、当協会会員会社の若手船員が自らの体験談を交えながら航海士・機関士それぞれの具体的な業務内容などを紹介した。



講演風景



講演風景



聴講する学生



学生からの質問に対応

当日は、学生と年齢の近い第一中央汽船の関口裕哉二等航海士、川崎汽船の合田皓一二等機関士、商船三井の菊川陽平三等機関士、日本郵船の戎井寛征三等航海士が講師となったこともあり、講演終了後に学生から多数の質問が寄せられ、終了時間を大幅にオーバーするなど、盛況な講演会となった。